新潟大学創立七十五周年を祝して！

教育学部同窓会 会長
臼杵 勇人

日ごろから教育学部同窓会の活動推進に格別のご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

令和六年は新潟大学創立七十五周年の記念すべき年であります。昭和二十四年五月、国立学校設置法公布により設置されました。「自律と創生」を基本理念に、「真の強さを学ぶ」大学として、また日本海側唯一最大の総合大学として教育、研究、社会貢献という見地から、地域のみならず世界の発展に資する「知の拠点」としての役割を果たしてきました。

創立七十五周年のスローガンは「新たな挑戦　大きな貢献」です。「絶えず変化する未来社会に貢献できる人材育成」「未来社会に向けて価値ある国際水準の研究を創出」「新たなライフ・イノベーションを生み出すための、社会と地域の共創の拠点」など新潟大学将来ビジョンの実現に向けた取組を行っていきます。十月十九日には記念式典・祝賀会を予定しています。また、創立七十五周年記念「新大祭」も十月十九日、二十日の両日、五十嵐キャンパスで行う予定ですので、是非大学へもお越しいただきたいと存じます。

さて、令和九年度に「教育学部同窓会創立七十五周年記念事業実施」について本年度の評議会に提案させていただきました。特設委員会を設置し、これから準備を粛々と進めて参ります。この機会を利用して、各支部組織や学科組織の懇親がより一層深まり、絆強化のいいきっかけになればと、願っております。皆様方のご理解とご協力で記念すべき周年行事になればと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

ところで、教員の待遇改善や教員の確保などの教育改革の動きがいよいよ始まりました。令和七年度教員採用選考検査が六月十六日開始され、七月の第一次検査から大学三年生の出願が可能になりました。また、給特法の見直しで四％の教職調整額が十％以上に引き上げる案を来年度の国会で審議する見通しだと聞いています。しかも、来年度実施の教員採用検査の日程を五月十一日にという文科省通知も出されています。日本の将来を担う子どもたちのための教育を行うには、何と言っても教員の待遇改善と業務の軽減、やり甲斐、働き甲斐のある職場環境の改善が最重要課題です。今後も教員の待遇改善や教員の確保などの教育改革の動向をしっかり見守っていきましょう。

花鳥風月

「平凡な教師は言って聞かせる。よい教師は説明する。優秀な教師はやって見せる。しかし最高の教師は子どもの心に火をつける。」

この言葉は、アメリカの教育者ウィリアム・ウォードの言葉である。

コロナ禍後、子どもたちの無気力や意欲の低下を感じることが多くなった。担任をしていた時には、そんな子どもたちに対して「どうしたら意欲を持たせられるのか」と試行錯誤を繰り返していた。宿題を減らして自主的な学習に取り組ませたり、人とのかかわり方を学ばせるためにグループエンカウンターを取り入れたり、時には膝を突き合わせてじっくり話をしたりと様々なことを試みてきた。どれほどの効果があったかは分からないが、どれも私にとってよい経験・思い出となっている。

今は子どもたちとのかかわりが、学年学級から学校全員となり、教職員も私の行動次第で、やる気をもち、教育活動にあたってくれる。子どもたち一人ひとりの心に火をつけ、教職員一人ひとりの心に火をつけた時、学校全体を大きく成長させることができると考えている。

（広報部　髙橋　新一）

情報交換　情報発信

新潟大学
教育学部同窓会
ホームページ

評議会報告

六月八日（土）、新潟教育会館を会場に、新潟大学教育学部学部長、柳沼宏寿様、教職大学院研究科長、高木幸子様をご来賓にお迎えし、同窓会の評議会が開催された。

評議会では、令和五年度の会務報告・決算報告があり、令和六年度の本部役員が承認された。続いて、令和六年度の活動の重点と各専門部の活動報告・活動計画、予算案の提案があり、いずれも全会一致で承認の運びとなった。

冒頭、臼杵勇人会長からは、今年度は新潟大学創立七十五周年の記念の年、今後も、令和七年度には全学同窓会の二十周年、令和九年度には教育学部同窓会七十五周年と周年行事が続くが、特設委員会を立ち上げ、準備を進めていくことや、周年行事には、支部長や学科代表からも積極的に参加していただきたいとの話があった。また、今年度の同窓会の活動も持続的で充実した活動になるよう、皆様からのさらなるご支援、ご協力をお願いしたいとの話があった。

柳沼学部長からは、同窓会には、学生も教員も支えられているという実感があり、有難い気持ちと同時に、責任も強く感じるとして、主に次の二点についてお話をいただいた。「グローバル化、多様化、複雑化する社会の中で、学生が、自分の資質を生かしながら、いかにリーダーシップや主体的な判断力を身に付けていくかが重要であり、とりわけ教員を目指す学生には、目の前の子どもたちに、これからの未来を担っていく資質能力を身に付けることができる力の育成を教員養成の中で進めていきたい。」「学校現場が教員不足と大変な状況の中で、教員養成としての新潟大学教育学部が果たす役割は何か。学生と共に、この問題を主体的に考えていけるような学びを進めていきたいし、さらに、それぞれの機関が、スクラムを組んで、お互いができることを進めていくことが重要である。」

柳沼宏寿　教育学部長

評議会の様子

高木教職大学院研究科長からは、教職大学院の現状について、「教職大学院のテーマは理論と実践の往還。大学で学んだ知見をもとに、現場に戻ってからも汎用していくことができるように、思考、実践、検証を繰り返している。その過程で全ての院生が力を身に付けている。」とのお話をいただいた。

令和六年度の活動の重点（一部抜粋）

一　「同窓会の集い」充実

・時代の要請にマッチした講演会の講師の選定、内容の充実を図る。

・参加の呼びかけを強化し、懇親会で支部、学科組織の懇親を一層深め、絆強化のよい機会とする。

・令和七年度全学同窓会創立二十周年、令和九年度教育学部同窓会創立七十五周年を迎えるにあたって、運営計画・準備を進める。

二　広報活動の充実

・より親しまれ、読み応えのある「教育新報」を目指し、内容の充実を図る。

・会員相互の情報提供及び情報交換の場として、ホームページの一層の活用・充実を図る。

三　組織の充実と強化

・アフターコロナの中、各支部活動や学科の集まり、同期の会など、縦と横のつながりを支援する。

・専門部の事業や各支部・学科の活動を基に、会員の帰属意識の向上を図る。

四　大学との連携

・教員養成改革の動向に合わせて、母校の発展のための助言や支援方法を工夫する。

・学生への支援並びに学部教官の同窓会活動への参加を働き掛ける。

・教育学部、教育実践学研究科と連携して、「カミングホームデイ」を開催し、教官との情報交換と絆づくりをとおして、同窓生の帰属意識を醸成する。

五　全学同窓会との連携

・令和七年度の全学同窓会創立二十周年記念事業の計画・準備を進める。

・全学同窓会賛助会員や新潟大学カードの周知を図る。

（文責　栗田　貫）

教育学部・教育学部同窓会共催

カミングホームデイ昼食会

日　時　令和６年８月24日（土）12：00～14：00

会　場　ホテルサンルート新潟　　会　費　無料

参加対象　学部４回生、ストマス２回生の皆様
令和２年３月～６年３月に新潟大学教育学部を卒業または教育実践学研究科を修了した皆様

内容　ホテルランチを通して同窓会の皆さんで親睦を深めます。初参加の現役学生の皆さんは、先輩若手教員の皆さんの活躍を聞いて明るい未来を見出せることでしょう。奮ってご参加ください。

支部長会・学科代表者会の報告

令和六年六月八日（土）、新潟教育会館を会場に、支部長会・学科代表者会の合同会議を開催しました。

現在、教育学部同窓会には、地域ごとに三十四の支部がありますが、今回は、六つの支部の支部長から出席していただきました。新潟市内や近隣の支部だけでなく、佐渡や村上など遠くの支部からも出席していただきました。また、全部で二十八ある学科からは、四名の学科代表者から出席していただきました。

それぞれの立場からの意見を共有することにより、今後の同窓会活動の在り方について幅広い視点で考えることができ、大変有意義な会となりました。

ご多用の所、出席してくださった皆様に心より感謝申し上げます。

会議の中で、支部長からは、支部活動の現状と課題について、次のような報告がありました。

・名簿の提出、会費の納入が滞りがちな学校が少なくないことについて、支部長として、今後も働き掛けを続けていく必要があると感じている。

・支部の集いを行いたいと考えているが、名簿が提出されない学校があるため、会員の所属や学校代表者を把握することができずに困っている。

・新潟大学教育学部の卒業生の割合が以前より減ってきているため、学校単位での連絡や働き掛けが、スムーズに行われなくなってきている。

・個人情報保護の観点から考慮すべき点はあるが、会員が名簿を共有し、活用できる仕組みがあれば、所属意識の高揚につながるのではないか。

また、学科代表者からは、学科の集いの現状と課題について、次のような報告がありました。

・新潟大学が創立七十五周年を迎えることを改めて周知し、この機会に学科の集いに参加するよう勧誘した。

・各年度のコアメンバーのような会員を通して、学科の集いへの参加を呼び掛けてもらうようにしている。

・卒業して間もない若い年代への声掛けを大切にし、早い段階で所属意識を持ってもらえるようにしている。

・大学の先生方が転勤、退職されたことが影響し、次第に大学とのつながりが薄れてしまった。卒業後に学科がなくなり、どのように大学とのつながりをもてばよいのか分からなくなっているという学科の話も聞く。

意見交換を通じて、「名簿の確実な作成と共有」「所属意識の醸成と各種事業への参加促進」「大学とつながる機会の創出」など、今後の同窓会活動の活性化に向けての課題が改めて浮き彫りになりました。

コロナ禍を経て、同窓会活動が大きな転換点を迎えていることは明らかです。同窓会活動の意義が問われています。今回、会議に出席してくださった支部長、学科代表者の皆さんは、どのように組織を維持し、運営していくべきかについて、熱意と責任感をもって考えてくださっています。今後、より多くの会員を巻き込んで、同窓会活動の在り方について議論を深めていくことが必要であると感じました。

今年度、新潟大学は創立七十五周年を迎え、令和九年度には、教育学部同窓会が創立七十五周年を迎えます。教育学部ならびに教育実践学研究科との連携を図りながら、母校の発展と卒業生の親睦を一層深めるために、同窓会の活動が貢献できればと思います。

（組織部長　古井丸　裕三）

教職大学院生　１年目の実践報告

中学校における機動的な校内支援者システムによる持続可能な不登校支援についての検討（１年次研究）

学校経営コース　鈴木　治弥（新潟市立巻東中学校）

本研究は、中学校における不登校・学校不適応傾向生徒への支援や保護者等との連携を、安定的かつ持続的に行うための組織的対応のさらなる効率化を検討するものである。特に、「主たる校内支援者（多くの場合に学級担任）をチームで支援する」、つまり「校内支援者支援」のあり方に焦点を当てることとする。この視点は、「生徒を誰一人取り残さない支援」に向けたものであるとともに、教職員の働き方改革推進の観点からも意義があるものと考える。

１年次前期に行った予備調査では、不登校支援における「支援者支援の必要性」と「支援者に生じる負荷の軽減可能性」について探った。これを踏まえて１年次後期に「担任お助け隊」による「追加支援」を軸とした実践を行い、直接支援者（対象生徒への支援を直接的に行う学級担任等）の状況と支援対象生徒等の変容を分析し、設定した手立ての有効性を検証してきた。

不登校支援においては、「相談体制」「情報収集・記録」「支援実行」に不足の点がある場合に、直接支援者の負荷が高まったり、支援の滞りが生じやすくなったりすることが分かってきた。そこで、「担任お助け隊」を軸とした実践においては、不登校対応に３つの機能「①相談総合窓口機能」「②支援判断補助機能」「③支援実行補助機能」を加える形で、それぞれのケースに「追加支援」を行うこととした。

これまでの取組等から、下記のようなことが見えてきている。２年次研究においても、支援者支援の視点を重視した実践を重ね、中学校における「持続的で効果的な不登校支援のあり方」を追究していく。

※「担任のお助け隊」の概要
組織：不登校担当、生徒指導主事、筆者
特徴：全校生徒の状況を把握、不登校対応についての共通の課題意識、機動性の高さ
役割：支援者支援の視点から行う不登校支援に関する追加支援

○支援者支援の観点からは、不登校対応の初期段階からの支援が効果的である。
○「担任お助け隊」による直接的な支援だけでなく、「支援者支援の認識の広まり」によって、支援効果は高まる。
○「支援に要する心的エネルギー」は、状況変化により大きな影響を受けるが、「支援者支援」によってその抑制を図ることができる。

弱視教育の視点を取り入れた環境設定とビジョンスライドの授業実践

教育実践コース　賀田　祐介（新潟市立上山小学校）

ビジョンスライドとは、特別支援教育（弱視教育）の視点をもとに、「しかけ」や「ゆさぶり」を取り入れて PowerPoint で作成した教材のことを示す。

１　背景と目的

文部科学省答申（2021）「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」では、児童生徒の多様化、学習意欲の低下、デジタルデバイスの使用の低調、情報化への遅れといった課題が挙げられている。それらの課題について、ビジョンスライドを用いることが有効ではないかと考えた。

２　ビジョンスライドの研究方法（１年次取組）

１）特別支援学校　盲部門実習
２）先行研究・文献
３）Ａ小学校授業実践

３　結果と考察

特別支援学校　盲部門実習と先行研究、文献から触察と体験の重要性が分かった。また、Ａ小学校の触察を生かしたビジョンスライドの実践から、子どもが意欲的に学習に取り組む姿が見られた。ビジョンスライド 10 のポイント実践（図１）では、主に授業の導入時における効果の高さが分かった。これらは、授業のねらいに合わせて選択することが授業内容の精選とビジョンスライドを生かす術につながる。

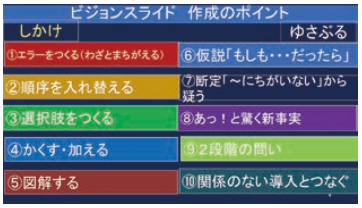

図１ ビジョンスライド作成の 10 ポイント

４　総合考察

ビジョンスライドを使って授業をした８名の教員のインタビュー調査から、「子どもの関心・意欲・態度が上がった」「子どもの思考とコミュニケーションが活性化した」「子どもの授業の振り返りや単元テストから学力が上がった」について、いずれも肯定的評価を得た。学校現場におけるビジョンスライドの意義や可能性は大きいと捉えている。

５　２年次における取組

弱視教育では、「教室環境の明るさ眩しさを調整する」「ズームによって見やすい支援を行う」「コントラストを意識したスライドを提示する」といった重要な３つの要素がある。今それらをビジョンスライドに取り込み、関心・意欲・態度と学力の変化を明らかにして、ビジョンスライドの効果を検証していきたい。

教職大学院生　１年目の実践報告

役割演技を用いた「特別の教科　道徳」の授業実践

教育実践コース　石黒　皓大（新潟市立鏡淵小学校）

本研究の目的

本研究では、「物事を多面的・多角的に考え、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」という道徳科の目標の達成へ向けて、役割演技を通り入れた授業を実践する。

授業実践

Ａ小学校の４年生を対象に、道徳科において、内容項目「C（11）規則の尊重」に基づき、役割演技を取り入れた授業を実践した。教材は、道徳（光村図書５年）の「雨のバスていりゅう所で」を用い、学習課題「きまりってどういうもの？」について考える活動を行った。

本授業の役割演技では、授業者が選定した代表児童が、聴者となったその他の児童の前で教材の再現を行なった。授業者が設定した場面と、台本に基づき、演者となった代表児童が演技を行った。役割演技終了後は、聴者と演者の双方向から、「演技を見て、どう感じたか」について意見を引き出した。

この授業では、役割演技に演者として参加した児童１名の学習過程を追った。普段の対象児童の様子から、「きまりは絶対に守るべきものだと認識し、きまりを守らないことが許せない」と考えていると推測した。教材の読み聞かせを行った直後は、きまりを守らなかった主人公に対して、否定的な感情を表していた。この対象児童に、役割演技において、きまりを守らなかった主人公の役を割り振り、演じさせた。きまりを守る普段の自分とは異なる立場の役を演じたことで、役割演技後の対象児童は、「(きまりを）守らない人がいると、(きまりを）守る人がかわいそう。」や「きまりがあると嫌な思いをする人だっているでしょ。」と発言した。これは、きまりを絶対視する普段の対象児童の認識とは異なる立場の意見であると考えられた。

成果と課題

成果として、役割演技により異なる立場を演じるという体験を通して、道徳科の目標でもある多面的・多角的な考えを持つことができたのではないかと考える。

課題として、役割演技において実際に演じる演者と、それを見る聴者とでは、視点・立場が異なるためか、意見の統制が困難であった。

今後は、役割演技を取り入れた実践を繰り返すことで、道徳科の授業づくりを豊かにしていきたい。

令和６年度　専門部活動計画

研修部　部長　坂内　徹

一　研修部活動計画

研修部では、同窓生が親睦を深めるとともに自己の人間的な資質を高めることを目的に本年度事業を以下のように計画いたしました。多数の皆様の参加をお願いいたします。

二　事業内容

「第四十九回　同窓生の集い」

・期　日　令和六年九月二十一日（土）
・会　場　アートホテル新潟
　新潟駅南口直結
・講演会（午後三時十五分
　～午後四時四十五分）
・演　題「子どもの感性がつなぐ命、
　そして平和」
・講　師　柳沼　宏寿　様
　新潟大学教育学部　学部長
・懇親会（午後五時～午後七時）

申込等詳細は十ページをご覧ください。

広報部　部長　栗田　貫

一　基本方針

○同窓会の活動や会員の声、大学の状況を積極的に紹介するとともに、会員のニーズに応える紙面づくりを目指すことで、役に立ち、取っておきたくなる広報誌を目指す。
○大学の取組等に焦点を当てて広報活動することで大学と同窓会の連携を推進する。
○年間二回、四色刷りカラー印刷を継続して発行する。

二　活動内容

「教育新報」年間二回発行
○第一八七号（七月二十日発行予定）
巻頭言、令和六年度専門部活動計画、同窓会本部役員・支部長・学科代表一覧、令和五年度決算報告、令和六年度予算、大学コーナー、教職大学院実践報告、花鳥風月等
○第一八八号（二月二十日発行予定）
巻頭言、花鳥風月、「同窓会の集い」報告、「カミングホームデイ」報告、学科や支部の活動紹介、学校紹介（小・中・特支学校）、会員の広場等

組織部　部長　古井丸　裕三

一　活動の重点

（一）事務局及び教育学部、教育実践学研究科と連携し、同窓会員の所属意識の高揚を図る。
（二）支部の集いや学科の集いの開催についての情報共有を通して、各組織の活動の活性化を目指す。
（三）各専門部と連携し、各事業への積極的な参加を促進する。

二　活動の内容

（一）支部長会の開催
（二）学科代表者会の開催
（三）カミングホームデイ（交流部）の開催に関するサポート
（四）同窓生の集い（研修部）の開催に関するサポート

三　その他

（一）支部や学科の活動の様子を紹介し新たな参加を促す。
（二）支部長、学科代表者と大学とのつながりを創出し、強化するための取組を行う。
（三）支部や学科の活動に関する意識調査を行い、同窓会活動の在り方について考える契機とする。

交流部　部長　諸橋　智

一　基本方針

大学（大学院）と同窓会役員や会員（現役学生）それぞれの交流促進を図る。

二　活動計画

（一）カミングホームデイ

昼食会を通して、卒業・修了生と現役学生の親睦を深める。
㊀日時　令和六年八月二十四日（土）
㊁会場　ホテルサンルート新潟
㊂参加費　無料
※今年から現役の学生や院生も参加

（二）教育学部並びに教育実践学研究科教職員との懇談会・懇親会

学部、教育実践学研究科の現状や取組、卒業・修了生の現状、同窓会活動について情報交換をする。
㊀日時　令和七年一月二十三日（木）
㊁会場　アートホテル新潟

三　その他

各種教育関係機関や他団体との連携促進

令和６年度　同窓会本部役員

☆印は新役員

役職		氏名	支部	校名など
会長		臼杵　勇人	新潟東	自宅
副会長		小林由希恵	新潟西	新通つばさ小学校
		近藤　幸栄	新発田	二葉小学校
		糀谷　正夫	長岡西	大島小学校
		小泉　浩彰	新潟北	岡方中学校
事務局		杉山　和敏	新潟西	教育学部同窓会事務局
		高橋　　円		
専門部	研修部	◎坂内　　徹	新潟東	下山小学校
		○小泉　慎子	新潟東	東特別支援学校
		志田江利子	新潟中央	新潟市教委学校支援課
		横山　雄大	新潟北	早通中学校
	広報部	◎栗田　　貫	新潟東	桃山小学校
		○音田　和行	新潟江南	横越小学校
		若月　利春	新潟西蒲	岩室小学校
		髙橋　新一	新潟北	木崎小学校
		山本　桜平☆	新潟秋葉	矢代田小学校
	組織部	◎古井丸裕三	新潟西蒲	曽根小学校
		○平田　伸一	新潟秋葉	荻川小学校
		樋口　大輔	新潟中央	浜浦小学校
		加藤　雅晃	新潟北	松浜小学校

役職		氏名	支部	校名など
専門部	交流部	◎諸橋　　智	新潟中央	日和山小学校
		○永井　高志	新潟中央	新潟市こども創造センター
		藤塚　静治☆	新潟中央	新潟市教育相談センター
		古川　智子	新潟中央	女池小学校
		藤田　　凌	長岡西	青葉台小学校
監事		石塚　智久	新潟西	真砂小学校
		川又　由香	新潟北	岡方第一小学校
		牧野淡紅恵	新潟東	下山中学校
顧問		中川　幸次	県外	自宅
		江口　直禎	新潟中央	自宅
		大関　雄策	新潟中央	自宅
		磯辺　浩昭	新発田	自宅
		藤井　保男	新潟東	自宅
		斎藤寿一郎	新潟東	自宅
		佐藤　重勝	新潟秋葉	自宅
		安達　　徹	新潟秋葉	自宅
新潟大学全学同窓会	理事	臼杵　勇人	新潟東	自宅
	運営委員	山下あい子	新潟西蒲	自宅
		畠山　典子	新潟西蒲	自宅
		松井　裕美	新潟中央	新潟市児童センター
		岡村　　浩	大学	新潟大学経済科学部

令和６年度　同窓会学科代表

☆印は新代表

	学科名	学科代表	校名など
1	国語	三村　孝志	自宅
2	地理	篠木　　格☆	上所小学校
3	歴史研究室	高橋　裕幸	白山小学校
4	経済	小庄司一泰	新潟市教育委員会学校支援課
5	哲倫	清野　真輝	曽根小学校
6	社会	土田　宏美	日吉小学校
7	算数・数学	小泉　浩彰☆	岡方中学校
8	物理	茂呂　良彦	自宅
9	化学	羽鳥　益実☆	下川西小学校
10	生物	八百板恵理子	潟東小学校
11	地学	横山　雅史	神林中学校
12	英語	橋本　敏郎☆	高田高等学校
13	音楽	斎藤　　隆	新潟市江南区役所健康福祉課
14	美術	永井　高志	新潟市こども創造センター
15	保健体育	栗田　　貫	桃山小学校
16	家庭［萌木会］	山際　章子	自宅
17	職業指導	松村　明彦	自宅
18	教育	山岸　真夫	自宅
19	教育心理	岡田　義則	早通小学校
20	技術	倉島　陽介	光晴中学校
21	特別支援教育	参宮　美樹	附属特別支援学校
22	養教特別別科	榎本　友海☆	堀之内小学校
23	幼児教育	近藤　和徳	新潟市教育委員会教育総務課
24	学社ネットワーク	小柳加奈子	自宅
25	生活科学	遠山麻依子	光晴中学校
26	生活システム	大森　　山	城北中学校
27	健康スポーツ	大口　良平	新井小学校
28	書道	岡村　　浩	新潟大学経済科学部

令和６年度　同窓会支部長

☆印は新支部長

地域		支部	支部長	校名など
上越	1	上越	鹿目　功二	ひすいの里総合学校
中越	2	長岡東	小磯　雅浩	中越教育事務所
	3	長岡西	渡邊　正博	青葉台小学校
	4	三条	佐藤　貴紀☆	大浦小学校
	5	柏崎・刈羽	川上　節夫	日吉小学校
	6	小千谷	高橋　　豊	総合支援学校
	7	加茂	亀倉　仲嘉	須田小学校
	8	十日町・津南	南雲　恵子	鐙島小学校
	9	見附	平野　秀穂	見附小学校
	10	燕	坂内　克明	燕西小学校
	11	魚沼	佐々木政彦	小出小学校
	12	南魚沼	桑原　洋文	城内小学校
	13	弥彦	五十嵐靖之	弥彦中学校
	14	田上	荒井　　純	田上小学校
	15	湯沢	阿部　隼英☆	湯沢中学校
	16	出雲崎	＊	＊
下越	17	新潟北	西方　俊也☆	南浜小学校
	18	新潟東	貝沼　浩晃	木戸小学校
	19	新潟中央	風間　弘子☆	紫竹山小学校
	20	新潟江南	川口由美子	東曽野木小学校
	21	新潟秋葉	風間　健二	新津第二小学校
	22	新潟南	小川　和宏	根岸小学校
	23	新潟西	林　なおみ☆	黒埼南小学校
	24	新潟西蒲	山口　　潤☆	巻南小学校
	25	新発田	関川　紀博	七葉小学校
	26	村上	松田　洋平	村上小学校
	27	五泉	若狭　陽一	五泉南小学校
	28	阿賀野	樋口　憲哉	堀越小学校
	29	胎内	山沢　正仁☆	胎内小学校
	30	聖籠	小野　俊巳☆	山倉小学校
	31	阿賀	国本　　力	阿賀津川中学校
	32	関川	金子　　浩	関川中学校
	33	粟島浦	久保　智音	粟島浦中学校
佐渡	34	佐渡	森　　和人	真野小学校

令和５年度　一般会計決算報告

1　収入の部

	項　目	R５年度収入額	R５年度予算額	比　較	摘　要
1	繰　入　金	7,000,000	7,000,000	0	総合会計から繰入れ
2	雑　収　入	150,035	0	150,035	利息、金券処理分
	合　計	7,150,035	7,000,000	150,035	

2　支出の部

（▲は残額）

	項　目	R５年度執行額	R５年度予算額	残　額	摘　要
1	会　議　費	32,807	40,000	▲ 7,193	会計監査、第１・２回本部会、評議会
2	旅　費	100,090	140,000	▲ 39,910	会計監査、本部会、評議会　（項目の部開催の旅費は各部での執行とする）
3	助　成　費	159,300	450,000	▲ 290,700	学科助成、支部助成、同期の会助成
4	事　務　局　費	1,387,581	1,200,000	187,581	消耗費、電話代、光熱費、封筒印刷代、印刷紙代、機器更新、通信費等
5	研　修　費	311,335	380,000	▲ 68,665	同窓生の集い企画・運営経費、旅費
6	広　報　費	551,200	750,000	▲ 198,800	機関紙発行２回、記事謝礼２回、パンフ№ 13 作成
7	組　織　費	0	20,000	▲ 20,000	
8	交　流　費	278,675	250,000	28,675	交流会企画運営費・経費・旅費、カミングホームデイ実施
9	大学・学生支援費	625,275	600,000	25,275	研究会助成、学生支援、 附属校研究発表会祝儀　　卒業祝賀会助成
10	奨　学　金	750,000	750,000	0	大学院教育実践学研究科現職院生奨学金（５× 150000）
11	全学同窓会費	504,330	500,000	4,330	全学同窓会負担金、全学役員旅費、全学交流会懇親会補助
12	人　件　費	1,800,000	1,800,000	0	事務局報酬２名
13	その他予備費	115,110	120,000	▲ 4,890	全学教職支援センター助成金、新潟教育会助成金、新大祭、群馬県支部祝儀等
	合　計	6,615,703	7,000,000	▲ 384,297	

3　残高の部

7,150,035 － 6,615,703 ＝ 534,332 円　　＊残金は年度末総合口座に繰り入れます。

令和５年度　総合会計決算報告

1　収入の部

（▲は予算に対して減）

	項　目	R5 年度収入額	R5 年度予算額	比　較	摘　要
1	繰　越　金	29,370,261	29,370,261	0	前年度繰越金（第四北越総合口座前年度末残金）
2	学校会員会費	1,690,106	2,000,000	▲ 309,894	会費　- 振込手数料 - 振込料（880）- 印字手数料（4720）
3	個人会員会費	89,943	100,000	▲ 10,057	会費　- 振込手数料
4	永年会員会費	3,993,652	3,000,000	993,652	会費　- 振込手数料
5	繰　入　金	534,332	0	534,332	一般会計への繰出金に残金がでたので、総合口座に戻した額
6	雑　収　入　①	124	0	124	一般口座利息
7	雑　収　入　②	124	0	124	一般口座利息
8	雑　収　入　③	0	0	0	銀行定期利息など
	合　計	35,678,542	34,470,261	1,208,281	

2　支出の部

	項　目	R5 年度執行額	R5 年度予算額	比　較	摘　要
1	一般会計繰出金	7,000,000	7,000,000	0	令和６年度当座金として、一般会計口座へ
	合　計	7,000,000	7,000,000	0	

3　残高の部

35,678,542 － 7,000,000 ＝ 28,678,542 円　　＊残金は、令和６年度第四北越総合会計に繰り越します。

大学教官の異動

（昨年度の七月以降）

◎学部を去られた先生

講　師　浅見　祐香（教育心理学）
令和六年三月末日　任期満了退職

教　授　伊藤　克美（理科）
令和六年三月末日　定年退職

教　授　佐藤　哲夫（美術）
令和六年三月末日　定年退職

教　授　堀　竜一（国語）
令和六年三月末日　定年退職

教　授　長澤　正樹（教職大学院）
令和六年三月末日　定年退職

◎新しくおいでになった先生

講　師　篠崎　敦史（社会科）
令和六年四月一日　採用

講　師　阿部　亮太（国語）
令和六年四月一日　採用

講　師　山本　咲子（家庭科）
令和六年四月一日　採用

助　教　金田　邦雄（理科）
令和六年四月一日　採用

助　教　和久井健吾（健康・スポーツ科）
令和六年四月一日　採用

教　授　村中　智彦（教職大学院）
令和六年四月一日　採用

◎昇任された先生

教　授　角田　勝久（国語）
令和六年一月一日　昇任

※教育心理学の横山　知行教授が令和六年四月にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

（敬称略）

令和６年度　一般会計予算

（▲は、前年度比較減）

1　収入の部

項目		R6 年度予算額	R5 年度予算額	増減	摘要
1	繰入金	7,000,000	7,000,000	0	総合会計から繰入れ
2	雑収入	0	0	0	
合計		7,000,000	7,000,000	0	

2　支出の部

項目		R6 年度予算額	R5 年度予算額	増減	摘要
1	会議費	40,000	40,000	0	本部会、評議会、会計監査会等の会場費、お茶代
2	旅費	120,000	140,000	▲ 20,000	本部会、評議会、監査会旅費
3	助成費	200,000	450,000	▲ 250,000	学科助成、支部助成、同期の会助成、学科の集い助成
4	事務局費	1,400,000	1,200,000	200,000	郵送料、電話・光熱費、印刷代、消耗品等
5	研修費	380,000	380,000	0	集い企画運営費等（会場費、講師謝礼、参加助成等）
6	広報費	600,000	750,000	▲ 150,000	機関紙「教育新報」発行代、同窓会パンフ作成代
7	組織費	20,000	20,000	0	運営諸経費
8	交流費	300,000	250,000	50,000	交流会企画運営費、カミングホームデイ企画運営費
9	大学・学生支援費	630,000	600,000	30,000	卒業論文発表会助成、卒業制作発表会助成、卒業祝賀会助成等
10	奨学金	750,000	750,000	0	奨学生５名
11	全学同窓会費	510,000	500,000	10,000	負担金、全学理事会・運営委員会旅費等
12	人件費	1,800,000	1,800,000	0	事務局報酬２名
13	その他予備費	250,000	120,000	130,000	全学教職支援センター助成、新潟教育会館助成等
合計		7,000,000	7,000,000	0	

令和６年度　総合会計予算

（▲は、前年度比較減）

1　収入の部

項目		R6 年度予算額	R5 年度予算額	増減	摘要
1	繰越金	28,678,542	29,370,261	▲ 691,719	前年度繰越金（第四北越銀行総合口座前年度末残金）
2	学校会員会費	1,700,000	2,000,000	▲ 300,000	会費　- 振込手数料
3	個人会員会費	100,000	100,000	0	会費　- 振込手数料
4	永年会員会費	4,000,000	3,000,000	1,000,000	会費　- 振込手数料
5	繰入金	0	0	0	＊一般会計への繰出金に残金が出た場合、年度末に繰入
6	雑収入	0	0	0	銀行利息など
合計		34,478,542	34,470,261	8,281	

2　支出の部

項目		R6 年度予算額	R5 年度予算額	増減	摘要
1	一般会計繰出金	7,000,000	7,000,000	0	
合計		7,000,000	7,000,000	0	

事務局だより

□「評議会」の報告

令和六年度の「評議会」を六月八日（土）に開催いたしました。柳沼宏寿教育学部長様並びに高木幸子教育実践学研究科長様から貴重なお話を頂き、これからの教育について考えるいい機会となりました。

議事につきましては、全県から集まられた支部長・学科代表（評議員）の皆さんの話合いを通して、すべての議案が承認されました。大変ありがとうございました。

また、そのあとの「支部長・学科代表者会」におきましても、今後の同窓会のあり方について熱い議論が交わされました。

□「新しい第一歩を」

今年度は、新潟大学創立75周年にあたります。そして令和９年度は教育学部同窓会が創立75周年を迎えます。先輩たちが苦労して立ち上げ、今日まで守り続けた同窓会。その思いを振り返り、更に充実発展させ、未来につなげるのが私たちの役目です。

今年度は、そんな新しい第一歩を踏み出す大切な年です。みんなで集い、思いをおおいに交流させましょう。「同窓生の集い」（９月）「新潟大学創立75周年記念式典」（10月）でお会いできることを楽しみにしております。

どうか皆さんで声を掛け合ってご参加ください。楽しく語り合いましょう。

大学のコーナー

安心・安全な学校づくりを支える～学校危機予防を考える～

新潟大学教育学部准教授　田中　恒彦

学校は、児童・生徒が学び成長する場です。その一方で、集団生活を行う場である学校には、いじめ、自殺、事故など多様な危機が存在することも逃れられない事実です。これらの危機は子どもたちの生活・学習環境を大きく揺るがし、児童・生徒の心身に深刻な影響を与えてしまいます。従来の対策は個別の危機に対応するものでしたが、これからは包括的かつ統合的な視点で危機に備えることが求められています。私は近年このように包括的に学校の危機的状況を回避・予防に資する学問的取組を「学校危機予防学」と呼称して学際的な取組が行われるように構想しています。

学校危機予防学の目的は、学校において引き起こる多様な危機に対する予防と対応を包括的に捉え、体系的なアプローチを提供することです。学校安全教育は、物理的安全はもちろんのこと、心理的安全も含む広範にわたる教育を対象とします。物理的安全には、校舎や設備の安全確保、防犯・防災対策などが含まれます。一方、心理的安全には、児童・生徒が安心して学べる環境作りや、人間関係作り、ストレスや不安を軽減するためのサポート体制の整備が含まれます。これらの基盤となる教育に合わせて、重大な危機が起こったときの早期対応体制を整備していくことが重要です。

学校危機の中でも、頻発する問題の代表はいじめです。いじめ防止は、加害行為の抑制にとどまらず、傍観者への指導介入、被害者支援や学級や学年、ひいては学校全体の関係性改善を目指す必要があります。いじめの発生要因を理解し、早期発見と迅速な対応を図るためのシステムを導入することが重要ですし、学校の実践を支えるバックアップ体制が整備されることも重要でしょう。また、被害者が安心して相談できる環境を整え、教職員や児童・生徒全員がいじめ問題に対して敏感に反応できるような環境整備が求められます。

また、喫緊の課題として自殺予防も重要です。コロナ禍以降、若年層の自殺増加が問題となっています。自殺予防教育は「命の尊さを教える」といった道徳的な側面よりもむしろ、自身が持つ問題を認識し、適切に援助を希求できるようにすることを目的としています。自殺リスクの高い児童・生徒を早期に特定し、適切なサポートを提供する体制を構築することはもちろん重要なのですが、適切な相手を選んでＳＯＳを出せるようになること、また教職員や保護者などがＳＯＳをキャッチできるようになることが求められます。自殺関連行動として自傷行為などについても、教職員が気づいた時に適切な対処が行われることが、重大事態の予防のためには大切になってきます。

これらの危機への予防は普段の学級経営・学校経営に大きな影響を受けます。多様性のある学校作りは、学校危機予防学の重要な柱となります。多様なバックグラウンドを持つ児童・生徒が共に学び成長する環境を整えることは、互いの違いを尊重し合う文化を育み支持的風土を醸成することができます。このような風土を作り上げるには、文化的背景や障害、性別、性的指向などの多様性を理解し、受け入れるような教育プログラムが必要となります。具体的には、教職員が日常的に知識をアップデートし、危機管理能力を向上させていくこと、児童・生徒自身もまた、普段の学びの中から危機を察知し対処する能力を育成する経験をしていくことが求められますし、そのために学校全体で取組を強めていくことが望ましいでしょう。そのためには、教職員に対する研修やワークショップを通じて、危機対応スキルの向上を図ることが必要ですし、問題が起こった場合にそれらのスキルが用いられることが大切になってきます。

ここ数年、私は新潟大学附属学校部の協力教員として、学校から生徒指導・教育相談状の支援が必要と依頼が来たケースのコンサルテーションを行わせていただくようになっています。第三者委員会のように重大事態になってから学校の対応について検証するのではなく、オンタイムで学校ができる最善の対応方法を考え事態の悪化を予防していく取組をサポートできていることに強い充実感を感じています。こういった仕組みが学校に実装されていくことにより、先生や保護者が安心して子どもたちに関わることができるように、ひいては子どもたちにとって学校が安全・安心な場所になるような体制作りが行われるようにと期待していますし、そのためにも積極的な発信を行っていく必要性を感じています。

学校危機予防学は、学校が今現在抱えている課題に対する理論的枠組みを提供し、実践的な解決策を導き出すことを目指すものですし学校をエンパワーメントするものです。研究と実践、学生への教育を通じて、新潟大学から取り組んでいく所存です。現場の先生方にもご支援・ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

第 49 回　同窓生の集い
講演会

演題
子どもの感性がつなぐ命、そして平和

日時
令和６年　９月 21 日（土）
１５：００より
（１４：３０受付開始）

講師
新潟大学教育学部　学部長
柳沼　宏寿　氏

長年新潟県の美術教育に携わり、多大な貢献をされてこられました。福島県公立中学校で21年間の勤務を経て2001年より新潟大学教育学部に勤務。新潟大学教育学部附属新潟中学校校長（2016-17）を務め、2024年度より新潟大学教育学部の学部長を務めておられます。著書・論文には「“子どもが思い描いた戦争”と“子どもの目に映った戦争”」（日本美術教育学会）『美術教育学原論～生命論パラダイムからの実践的アプローチ』（ハイングラフ）他があります。

貴重な講演の機会です。皆様のお越しをお待ちしております。

場所
アートホテル新潟
〒950-0911　新潟県新潟市中央区笹口 1-1
TEL. 025-240-2111

申し込み＆問い合わせ先
新潟大学同窓会事務局
TEL＆FAX　025－263-6760
MAIL　dousou@ed.niigata-u.ac.jp
※火曜から金曜までの 12:45 から 16:45 の間にお願いいたします。

日程
受付 14:30～
開会式
　15:00～15:15
講演会
　15:15～16:45
懇親会
　17:00～19:00

入場料
無料

懇親会
新潟大学教育学部の卒業生の方は，是非懇親会にもご参加ください。参加を希望される方は８月 23 日までにご連絡ください。参加費は 6,500 円です。
(同窓生には一部補助をします。)

主催
新潟大学教育学部同窓会

後援
新潟市教育委員会
（申請中）

教育新報 第 187 号　発行人　臼杵　勇人　事務局　新潟大学教育学部内　TEL (025) 263-6760　印刷所　阿部印刷株式会社